

アジア 3 R 推進フォーラム第 2 回会合の結果について

1. 概要

我が国は、アジアの途上国における廃棄物の適正処理や 3 R の推進による循環型社会構築に向けて、各国政府、国際機関、援助機関といった多様な関係者が協調した取組を進めていくための基盤となる「アジア 3 R 推進フォーラム」の設立を、平成 20 年 10 月に開催された東アジア環境大臣会合において提案し、各国の賛同を得た。

これを受け、環境省と国連地域開発センター（UNCRD）は、「アジア 3 R 推進フォーラム設立会合」を平成 21 年 11 月に東京で開催し、「アジア 3 R 推進フォーラム」が設立された。同フォーラム第 2 回会合を平成 22 年 10 月にマレーシアにて開催し、成果として議長サマリーが取りまとめられた。また、シンガポールより、次回会合を来年シンガポールで開催したいとの表明がなされ、参加者の賛同を得た。

2. アジア 3 R 推進フォーラム第 2 回会合

主催：環境省、国連地域開発センター（UNCRD）、マレーシア住宅地方自治省

日時：平成 22 年 10 月 4 日～6 日

場所：マレーシア（クアラルンプール）

出席者：アジア諸国・太平洋島嶼国 22 カ国（大臣含む）、国際機関、NPO、民間企業の代表、専門家

日本から樋高環境大臣政務官が出席し、オープニング・リマークスを行った

< 議長サマリー概要 >

日本の循環型社会に向けた政策・戦略や、中国・韓国での同様の政策・戦略はアジア地域におけるモデルになりうる。

製品や廃棄物に関する経済的措置、拡大生産者責任、エコラベル等の導入により、費用効果的な対策が可能となり、また、新たな市場や雇用も生まれる。

廃棄物の量や構成及び GDP 等の経済指標との関連についての情報基盤を充実させるために、廃棄物発生についてのインベントリ及びパフォーマンス指標作成を検討すべき。パフォーマンス指標は、経済成長と環境劣

化のデカップリングなど政策実施状況の把握にも有効。

3 R に関する技術移転が成功するためには、技術的な条件に加え地域毎に異なる社会的条件を考慮することが重要。

途上国では、インフォーマルセクターの中小企業が 3 R ビジネスにおいて重要な役割を果たしており、リサイクル率の改善のため、技術支援、マイクロファイナンスなどによるキャパシティビルディングが有効。

3 R の概念は気候変動や有害物質の使用削減といった様々な地球規模の問題と深く関連しており、また廃棄物分野の取組は CDM プロジェクトで有利である。

各国は、3 R 国家戦略を策定することが奨励される。また、戦略においては、経済のグリーン化に関して明確にすべきである。

二国間協力は重要であり、このフォーラムにより協働とパートナーシップの促進、3 R の経済的・環境的便益についての知識の充実が期待される。

また、日本及びマレーシアの NGO が参加した NGO サイドイベントが併催されアジア 3 R 推進フォーラム日本大会のステートメントが報告された。NGO サイドイベントの結果はこの第 2 回会合に報告された。